

研究テーマ 身近な社会的事象を通して、自分事として考えさせる指導の工夫
－第4学年 「災害からくらしを守る」－

【提案】

社会事象に対して興味をもてず、また社会問題を自分事として捉えられない児童が多くいる。そこで身近な自然災害を教材化するなど、児童目線の単元計画を工夫することで、児童が社会事象に対して自分事として捉えられると考えた。また、市役所や県が自然災害の備えとしてダムや護岸工事、食料を始めとする物資の備蓄や各関係諸機関と協力体制を整えていること（公助）を学んだ後、それだけでは補えない部分を考えさせる活動を行い、自助・共助の必要性を自ら考え、行動しようとする態度の育成を目指し、本実践を提案する。



【様々な自然災害を学習した後、地域の被害予想を、資料を基にグループで話し合っている】

1 実践のポイント

(1) 児童の生活環境から入り、自分事として考えられる学習計画の設定【主体的な学び】

令和元年に起きた台風19号の災害は児童にとって身近な自然災害であり、学区内でも大きな爪痕を残した。風水害により、橋の流失、持久走記録会実施予定だった近くのグラウンドの水没および設備の流失が起きた。これらは児童にとっても衝撃的な出来事であったと思う。身近な生活環境に目を向けることで、主体的な問いにつなげやすい。そこから他地域との比較を通して、学習を広げるようにしていけば、単元を通して主体的な学びができる一助になると考えた。自分たちの生活を守っている「何か」を調べまとめていく過程で、自分は何をする必要があるのかを自分事としてまとめられるような学習計画を立て、児童が主体的に学べるようにする。

(2) 学び合いを通して、自分の考えをつくっていく【対話的で深い学び】

本実践では、児童の考えを深めていく手立てとして学び合い活動を取り入れた。3～4人の少人数で学習し、友達との距離を近くすることで、心理的にも考えの共有が図りやすい。学び合い活動を通して、自分の考えに自信がもてたり、自他の考えに疑問を抱き、さらに考えを深めようとしたりしながら自分の考えをつくっていく。グループの考えをまとめる活動ではないことに留意し、全体で共有させたい児童の考えを見取ることが重要である。

2 実践の位置付け

(1) 小学校学習指導要領との関連

内容(3) 自然災害から人々を守る活動について、学習の問題を探求・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。
 ア(ア) 地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。
 (イ) 聞き取り調査したり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめること。
 イ(ア) 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。

本単元は、内容(3)の「自然災害から人々を守る活動」に関する内容で構成した単元である。事例としては風水害を中心とした土砂災害を取り上げている。内容の取扱いに示された「地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちでできることを考えたり、選択・判断したりできるように配慮する」ことについては、「生かす」段階で児童が地域の課題やその対策を具体的に知り、それらを活かして減災のためにできることを考えるように意図している。

小単元の導入時に平成11年8月の吾野駅土砂崩れの様子を取り上げる。市内において起きた災害について関心をもち、自然災害が起こると自分たちの生活に大きな影響が出ることを感じさせられる。以前学習した有間ダム治水の働きが生かされていることから学習の意欲につながると考えた。また過去における様々な自然災害にも関心を高めることができる。「調べる」段階においては、市役所の危機管理課の方のお話や自主防災組織の取組を取り上げ、自然災害から人々を守る活動について実感的に調べたり考えたりできるようにする。

(2) 実践のポイントの学習評価との関連

・児童をよりよく見取るための多様な評価方法の実施【主体的な学び】

児童が主体的に課題に取り組むために、児童の取り組みについて多様な評価を行い、価値を与え、称賛していく必要がある。記述評価は、ワークシート、ノート、図、絵、などが考えられる。発言評価については、発表、グループ内での話し合い(つぶやき)などが考えられる。例えば第4時で思考・判断・表現を評価する場面では、「治水に役立つダムだね」との発言から自然災害から人々を守る活動の果たす役割を考えられていることと評価できる。学習が進み、万能に思えたダムについて「お金がかかる」「そんなに作れない」など、設置費や維持費の困難さ、ハード面の限界も考えなければならないという記述から評価できる。

・児童を伸ばすフィードバックの実施【対話的で深い学び】

児童が考えを深めていくために、ペア・トリオでの学び合いを行う。学び合いの際は、教師は学び合いを促進するキーワードを、児童の話や考えから見つけ、全体に返していくことが必要である。そうすることで、論点を導きながら、児童の考えをもとに深めていくことにつながる。

3 実践の内容

(1) 単元の目標と評価規準

自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害に関する機関の協力などに注目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料を調べたりして、まとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通じて、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な備えをしていることを理解できるようにする。

自然災害から人々を守る関係機関や人々の活動について、学習問題を主体的に調べ解決しようとするとともに、学んだことをもとに自然災害から自身の安全を守り、自然災害の備えに取り組もうとする態度を養う。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|--|
| ① 過去に発生した地域の自然災害や、関係機関の協力などについて、聞き取り調査したり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。 | ① 過去に発生した地域の自然災害や、関係機関の協力などに着目して、問いを見出し、災害から人々を守る活動について考え表現している。 ② 地域の関係機関や人々の様々な協力関係と安心できる生活環境を関連付けて自然災害から人々を守る活動の果たす役割を考えたり、学んだことを基に、災害から人々を守る活動を考えたり、学習をしたことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。 | ① 自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追及し、解決しようとしている。 ② 学習したことをもとによりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。 |
| ② 調べたことを関連図や文などにまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。 | | |

(2) 指導計画と評価計画(10時間)

○内の数字は時間を表す。
 〈 〉内は評価の方法を表す。

知：知識・技能
 思：思考・判断・表現
 態：主体的に学習に取り組む態度

| | 学習活動・学習内容 | 評価の観点・内容・方法 | 資料 |
|-----|--|--|--|
| つかむ | ① 過去の埼玉県 naturally 災害について調べる ・地域性のあるさまざまな自然災害を写真や絵から考える ・風水害(河川の氾濫、洪水、浸水、土砂崩れ竜巻など) ・地震災害(土砂崩れ、倒壊、液状化など) ・大雪災害 ・災害による交通網、生活障害 実践のポイント(1) | 知① 過去に発生した地域の自然災害や、関係機関の協力などについて、地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害について理解している。 〈発言・ノート〉 | ・風水害、地震、大雪、竜巻などの自然災害の中でも人的被害中心の画像と動画 ・生活環境から考える資料 |
| | ② 吾野駅の土砂災害の様子と現在の様子について調べ、関心をもつ ・吾野駅土砂崩れの被害状況 ・周辺住民への影響 ・鉄道利用者への影響 ・復旧、対策後の様子 | 思① 過去に発生した地域の自然災害から人々を守る活動について考え表現している。 〈発言・ノート〉 | ・災害前後の吾野駅の画像 |
| | ③ 市の過去の自然災害を調べ、学習問題をつくる ・大岩を運んだ土石流 ・風水害が多い 学習問題 自然災害からくらしを守るために、どのようなことが行われているのだろうか？ | 態① 自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てている。 〈発言・ノート〉 | ・市の自然災害年表 ・明治43年の洪水による災害写真 |
| 調べる | ④ 市内にはどのような風水害を防ぐものがあるのか調べる ・構造物などのハード面の減災 ・有馬ダム、のり面、護岸 ・ハード面の減災の限界と費用 実践のポイント(1) | 思② 自然災害から人々を守る活動の果たす役割を考え、適切に表現している。 〈発言・ノート〉 | ・有馬ダム、砂防ダム、のり面工事などが機能している画像と映像 ・ダムの貯水量 |
| | ⑤ 市は災害に備えてどのようなことをしているか調べ、関連図にまとめる ・防災倉庫 ・避難所の設置 ・地域で行われている防災訓練の協力 ・消防・警察・消防団などの協力体制(自衛隊派遣、一般企業等との協定など) ・自主防災の必要性(共助) | 知② 調べたことを関連図にまとめ、地域の関係機関は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。 〈ノート〉 | ・防災倉庫、避難所、防災訓練の画像 ・災害時の企業との協定書 |
| | ⑥ 地域では災害に備えてどのような備えをしているか調べ、関連図にまとめる ・自主防災組織・自治会組織(共助) ・地域の防災訓練 ・自主防災の必要性について | 知② 調べたことを関連図にまとめ、地域の人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。 〈発言・ノート〉 | ・自治会長のインタビュー動画 ・地区防災訓練の画像 |


| | | | |
|--|--|---|--|
| 調べる | <p>⑦ 市はどのように私たちの生活を守っているのか調べる（公助）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害前の呼びかけ ・災害時の情報発信の工夫 ・24時間対応 ・消防、警察、消防団などの協力体制 | <p>思② 地域の関係機関や人々の様々な協力関係と安心安全な生活環境を関連付けて自然災害から人々を守る活動の果たす役割を考え、社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。</p> <p>〈発言・ノート〉</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理課のインタビュー動画 ・消防、警察、自衛隊の災害復旧活動画像 |
| | <p>⑧ 自然災害の前ぶれや、備えなければならないことを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風水害の前触れ ・自然災害を想定した通学路チェック ・身を守る方法（自助） | <p>態② 学習したことをもとによりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。</p> <p>〈ノート〉</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップ、土砂災害の前触れ事例の画像 |
| まとめる | <p>⑨ 学習全体を振り返り、まとめ、文や関連図にまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダムや市役所などの減災の取り組み ・地域の自主防災の取組とその必要性 <p style="text-align: center;">実践のポイント（2）</p> | <p>態① 自然災害から人々を守る活動について、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追及し、解決しようとしている。</p> <p>〈ノート〉</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに扱った減災に関わる資料 |
| <p style="text-align: center;">学習問題の結論</p> <p>関係諸機関と地域の人々は過去の災害発生状況などを踏まえ、協力して様々な情報を集めたり訓練を行ったりしながら、土砂災害による被害を防いだり減らしたりするための備えをするなどして地域の人々の安全を守っている。自分たちでも備えをする必要がある。</p> | | | |
| 生かす | <p>⑩ 自然災害から身を守るために自分たちができることを考え、私の防災宣言をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ifストーリーから、大規模災害の際の困難さ ・減災に向けた自身でできる備えと心得 <p style="text-align: center;">実践のポイント（2）</p> | <p>態② 学習したことをもとによりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。</p> <p>〈ノート〉</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ifストーリー |

4 実践の結果と考察


（1） 児童の生活環境を基にして、自分事として考えられる学習計画の設定【主体的な学び】

【第1時の資料】

比較




【同年5月の学習風景】




【台風被害後の風景】

生活環境から考える資料

→



【現在の吾野駅斜面】



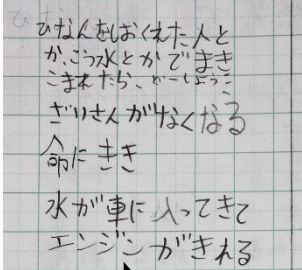
【災害時の吾野駅】

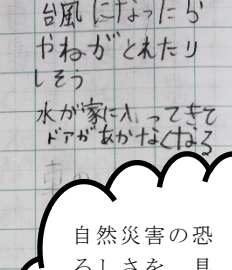
生活環境から考える資料をもとに考えた

→

【第2時の資料】

比較



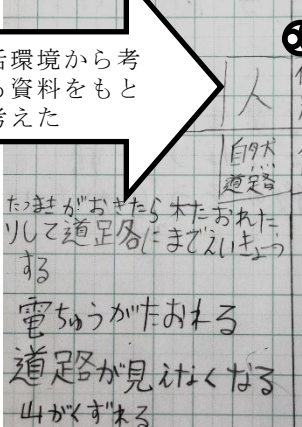


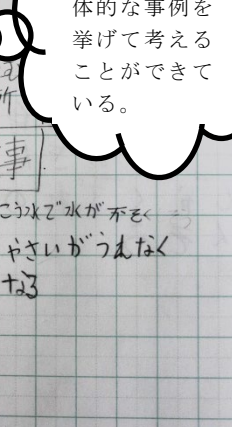
生活環境から考える資料をもとに考えた

→

【第3時の資料】

比較





自然災害の恐ろしさを、具体的な事例を挙げて考えることができている。

まとめ 自然災害がおこると...
 自然災害がおこるとたくさんの命がなくなりバス、電車、タクシーにえいぎょうがでる。色々な人のざいさんもなくなる。そのためいまだにひなん場でくらしている人もいる。かたづけのにもたくさんお金がいる。つまり大変だしきけん

第1時のまとめ

単元の導入や調べる活動で、児童の生活環境から学習を進め、社会事象を自分事として捉えさせ、比較しながら考えさせる時間を、各時間の導入に設けることで、より主体的に取り組める。

【第4時の資料】

| 10/13 00時現在 | | |
|-------------|-----------|---------|
| 有間ダム | 貯水量 (千m3) | 貯水率 (%) |
| 00:00 | 7483 | 100.0 |
| 23:00 | 7512 | 100.0 |
| 22:00 | 7545 | 100.0 |
| 21:00 | 7451 | 100.0 |
| 20:00 | 6985 | 96.3 |
| 19:00 | 6501 | 89.7 |
| 18:00 | 6062 | 83.6 |
| 17:00 | 5609 | 77.4 |
| 16:00 | 5158 | 71.1 |
| 15:00 | 4719 | 65.1 |
| 14:00 | 4358 | 60.1 |
| 13:00 | 4111 | 56.7 |
| 12:00 | 3923 | 54.1 |
| 11:00 | 3760 | 51.9 |
| 10:00 | 3616 | 49.9 |
| 09:00 | 3490 | 48.1 |
| 08:00 | 3382 | 46.6 |
| 07:00 | 3301 | 45.5 |
| 06:00 | 3261 | 45.0 |
| 05:00 | 3239 | 44.7 |

ダムの貯水量が急激に増え満水になった切迫感を感じさせる資料

(本校職員のインタビュー)
 ダムの下流に住んでいるが、夜になって緊急避難の放送があってみんなで避難した。とても怖かった。

【児童の考え】

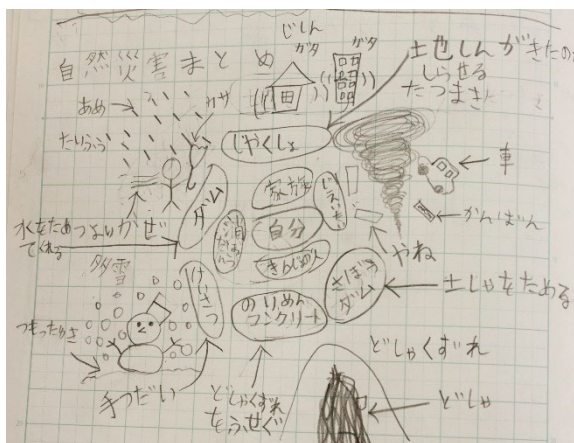
ダムの大きさは知ってたけど、大雨が続くとためられなくなる。そうなると大量の水が川に流れるから満水になるペースが早くて、ひなんする時間があるか心配
 放送があっ、それを聞いてひなんした。

治水の効果はあったけど、限界がある

満水になったら、大量の雨水を川に流すしかない

導入や調べる活動で、切実感のある資料を用意することで、今ある備えは万全ではないから、「なんとかしなければ」と、社会事象を自分事として捉えさせ考えさせる。

(2) 学び合いを通して、自分の考えをつくっていく【対話的で深い学び】



学習の苦手な児童がまとめた関連図



班の考えをまとめるのではなく、自分の考えをつくっていく活動



自分の考えに自信のない児童も、友達の多様な考えに触れたり、考えを取り入れたりすることで、自信をもって考えをつかっていくことができた。全員が自分の考えをまとめることができた。

(3) 児童の発言や作品等の分析事例【学習評価との関連事例】

【第4時 共助や自助の必要性を感じさせ始める場面】

児童の発言から

児童のノートから

見学した
ダムだ。

治水に役立つ
ダム。安心に
つながるから
いっぱい作れ
ばいいね。

主体経験を生かして、主体的に学習に取り組もうとしている。

思考自然災害から人々を守る活動の果たす役割を考えられている。

ダム→こう水を防いで
（川に流れる水量を
調整して）
治水
ありダム 2.3倍
砂防ダム→土砂が流れ
くるのを防ぐ
b.b.基→1基1億円
護岸→川が岸をけず
るのを防ぐ
のり面工事→山くずれを防ぐ

「だけど、これだけお金がかかるから、ダムをいっぱい作るわけにはいかない。」
「守ってくれるけど、そんなに作れない。（すなわがつまる）」

思考ハード面で安心な暮らしができているという思考から、設置費や維持費の困難さ、ハード面の限界（思考を揺さぶる事実）も考えなければならないことに気付く記述。

【第10時 切実に自助、共助の考える資料】 態度

if (もしも) ストーリー

「あなたなら、どうします？」

- ・学校がお休みの日の夕方。
- ・大雨がきのうからずっとふっている。
- ・お家の人は外出中で、すぐには帰ってこない。
- ・道路が川のようになってきた。
- ・テレビでひなんすることを知った。
- ・防災無線でもひなんするようにいっている。
- ・お家の人とはれんらくがつかない。
- ・げんかんまで水が入ってこようとしている。
- ・山からか、地ひびきが聞こえた。
- ・外は暗い。
- ・そのうち、電気も切れてしまった。

共助の必要性を理解し、自分も協力したいとすることが書けている。

自分の身を守るためには、
家だつたらランプを持って食料
をあるだけふくからリュックに
入れてしめて（もて）2かいにのぼる
そして生きぬくふくくは、なる
べくおたかひくを。

ひなんして生きぬくためには、
他の人がいるから、
他の人とかひなんして
みんなと協力し合えて
少しでも生きぬく。

自助について具体的な
方策が書けている。

わたしの防災宣言

もしも自然災害があきて
もだいじょうぶなように、
食べものやふくをなえ
いって災害があきても
いよいよにじゅんびして
ぬく。

防災宣言をどの程度自分事として考えられているか。

5 研究の成果と今後の課題

<成果>

- ・児童の生活環境を中心に単元計画を設定したことで、単元を通して、自分事として課題に取り組み、意欲をもち続けることができた。
- ・意見の共有を図る場面を多く設定することで、考えをもつ児童が学習の苦手な児童を支えて、考えをまとめることができた。

<課題>

- ・児童目線で展開することを重視し、実際に被害河川の見学にも行った。学びが多くなる一方、時数確保が困難になり、次単元以降に影響が出てしまった。
- ・学び合いを通して、意見交流をすると、多数派の意見や、発言力のある児童の意見に偏る傾向が見られた。自分のもつ意見でよいことを伝えていきたい。
- ・上流にある学校と交流し、災害に対する意識の大きさをを感じる体験をさせられたら、さらに身近な問題だと捉えられると感じた。